





名冠名  
附取

二星書屋



支離離の布と知るの忠孝貞仁  
小情愛と會て句作案一方法小  
まごりてまごりて冠りてまごりて  
志はぬ中う小案句まごりて  
云葉の内小字に其代名物の物  
中う小いひ通一まごりて小まごり  
小情と是も句之題と遊々  
句作が肝要之當時流りの案し  
方た小情と是も句之題と遊々  
初心乃後り小もまごりて  
とく小まごりて  
麻貫識

夏コハ或中建テ  
二平建テ



連中ふかり

おんふ川でもアノおツの

おツの玉川とせかん

夜拵改メ

晩うゝ明イ煙ーた

行煙張えゝゝとせかん

さつちりと

用心しの能イけーかろぬ

用心のよゝたのゑのそイち知と  
まじん

顔役さん

粥乃草モヤでたろりよる

顔役さんとのふ題をちる乃

ちる乃のふのふのふのふのふ

顔役さんーたろりよる

# 名冠附名取之津糸

和田麻貫撰

まののり

つは 柳ノタ 刻ー ヲキ

海

ちの 柳ーんとこりや擦しん

張ッてる

柳ツイテ子妻うゝー踏まへのも

きみこがゑい

オレツイテのうゝーおんと好キトイ

遊ツイテー

りしと風を思ふと寝る備ら

んぞと成し

世帯 仕事はる仕事せんら

照互テし

芝草が子と酒いやナア

練の葉業

汁掛ケりんがガサめんて

味く出しする ぬい指と

ふよナと成し

どんおやり脊中 寝キ付り

そであのや

沙がおあさうとんとあぬ

たのしみ

續ちどろが けり物

つくり役や

いんぞコナイお女しる

十か

あキや 寝あたまを引ぬて

一本ノドや

んぞ呉し火鉢の石を折て

さうらる

味シ合イエライの張ツ

アツ

昔<sup>イナ</sup>摩<sup>イナ</sup>吾<sup>イナ</sup>トヤとあり

<sup>ニサ</sup>西<sup>ニサ</sup>海<sup>ニサ</sup>

習<sup>ニサ</sup>口<sup>ニサ</sup>斗<sup>ニサ</sup>り<sup>ニサ</sup>皆<sup>ニサ</sup>ナ<sup>ニサ</sup>沙<sup>ニサ</sup>画<sup>ニサ</sup>く

出<sup>ニサ</sup>川<sup>ニサ</sup>と<sup>ニサ</sup>延<sup>ニサ</sup>び

私<sup>ニサ</sup>イ<sup>ニサ</sup>ら<sup>ニサ</sup>致<sup>ニサ</sup>日<sup>ニサ</sup>あ<sup>ニサ</sup>ひ<sup>ニサ</sup> 方<sup>ニサ</sup>フ<sup>ニサ</sup>ダ

お<sup>ニサ</sup>ま<sup>ニサ</sup>へ<sup>ニサ</sup>あ<sup>ニサ</sup>る

明<sup>ニサ</sup>ト<sup>ニサ</sup>や<sup>ニサ</sup>有<sup>ニサ</sup>る<sup>ニサ</sup>の<sup>ニサ</sup>タ<sup>ニサ</sup>ア

か<sup>ニサ</sup>ら<sup>ニサ</sup>ん<sup>ニサ</sup>て<sup>ニサ</sup>る

シ<sup>ニサ</sup>ミ<sup>ニサ</sup>ト<sup>ニサ</sup>や<sup>ニサ</sup>カ<sup>ニサ</sup>ウ<sup>ニサ</sup>ク<sup>ニサ</sup>下

よ<sup>ニサ</sup>こ<sup>ニサ</sup>い

能<sup>ニサ</sup>カ<sup>ニサ</sup>ら<sup>ニサ</sup>ん<sup>ニサ</sup>お<sup>ニサ</sup>が<sup>ニサ</sup>流<sup>ニサ</sup>り<sup>ニサ</sup>ル<sup>ニサ</sup>ナ<sup>ニサ</sup>ア

足<sup>ニサ</sup>通<sup>ニサ</sup>一<sup>ニサ</sup>緒<sup>ニサ</sup>

礼<sup>ニサ</sup>シ<sup>ニサ</sup>か<sup>ニサ</sup>け<sup>ニサ</sup>よ<sup>ニサ</sup>る<sup>ニサ</sup>玉<sup>ニサ</sup>ま<sup>ニサ</sup>め<sup>ニサ</sup>る

<sup>タイ</sup>大<sup>ニサ</sup>將<sup>ニサ</sup>と<sup>ニサ</sup>下<sup>ニサ</sup>や

あ<sup>ニサ</sup>る<sup>ニサ</sup>有<sup>ニサ</sup>る<sup>ニサ</sup>ヒ<sup>ニサ</sup>ラ<sup>ニサ</sup>ダ<sup>ニサ</sup>ハ<sup>ニサ</sup>ツ<sup>ニサ</sup>橋<sup>ニサ</sup>り

阿<sup>ニサ</sup>ん<sup>ニサ</sup>あ<sup>ニサ</sup>ん<sup>ニサ</sup>お<sup>ニサ</sup>ら<sup>ニサ</sup>ふ<sup>ニサ</sup>あ<sup>ニサ</sup>ら<sup>ニサ</sup>ん<sup>ニサ</sup>う<sup>ニサ</sup>あ

遠<sup>ニサ</sup>の<sup>ニサ</sup>れ<sup>ニサ</sup>ぬ

ヨ<sup>ニサ</sup>る<sup>ニサ</sup>毒<sup>ニサ</sup>性<sup>ニサ</sup>小<sup>ニサ</sup>河<sup>ニサ</sup>の<sup>ニサ</sup>ひ

淋ナしう 裏小ウラコ 善タカうそハテヤ

何ナニ中ナカを中ナカ

チヨツコラちうとくニツケとら

安ヤスもモ 親ウタ々々

隣トナリの内ウチハけハあんトヤ

千秋乐

まマ列レききキキ 其ソノあア々々

切り切キリキ

好コト十ジュウあア々々 春ハルムウ 能ノイイ々々

ほホ々々

五イラハ始ハジ未メトヤヤヤ 柿カキ々々

菊キク主ヌるル々々

出デて来キリヤヤ 小コ果ノ報ホウ々々

ふフト

竹タケ乃ノ魔マ尔ニ未メ生シ 泳ユウ

うウきキ

日ヒ乃ノ出デぬヌ々々 小コ自ジのノどド々々

若ワカイイナナア

まマどドアア々々 ぬヌワワイイ 足タラシ々々 元ゲントトガ

繪エ々々 書カキ々々

艶のわらわど艶うとん

酒きけん

きん〜こ子さうりま

あふ迷い

やう吹くまうり 好風を

眼をふざだ

隅とぶらく小を箱の

舞の振う

演ふ列〜規〜

あいら

右乃けてぎる足〜の

恩と知り

人も能べ〜下夕乃教

思ひつ〜

節への得〜有る斗り

初音

いあふ十織り〜きりぞ

〜十きり

女のよふ〜られん

きれいの

小節よあー小妻ういよ  
埃り斗りーや強さーの

立派

立して呉しふその口を

エヤ

おと方がぬらひは巨燭ワ

あふ付いてる くら 代イダ

殺生ヤの

照イテ新うが家洞宛ガ

姫

お月ありお歌おサーヤツ

氣さ

ふふト成口ぞ其めキヤ

よーのふ

まき人ふ前ー有るうー

豪傑お拵

ぶらー 迫りる白イ粒口

エンリヨ  
きさ魚のふ

の物ふまのえとかん



いふふらり〜

おころふらんとお一人りけ

付あんが

後が頼トあいの何ニ喰くも

か〜

るる〜とん頼トや有る

と福袋

猫コ足トへ足袋をう〜

リウ〜

湯気がう〜ナア合好〜

ゆ〜

ア〜八様領ウ

先〜

常ス今〜

聖

お〜花トやが延〜

そ〜

植木屋子ヨット〜

め〜

け方〜

ほろりおひ

人のまゝが一人をみる

おひら

赤いのお景し下まらひ

たのしみ

コイツ土用を越ふスルツ

月

淀島ちりの橋の方山

浪をのり

新橋より成し常小

ほんまど尾よ

お小大キイ用買ワ

皆時是

新橋をのりどまら男イガ

おひら

廻後橋をのりて後おひら

音ノ息

赤いつりりがま白口

おひら

おひらおひらおひら

坊主小八巻

掃除と云へる 此の寺に

と云ふなりと

かゝり 何れぞかきつらぬ

後遺と云ふなり

後遺より云へる 是れ 師の

恩ふ云々

将し 獄ゴク 洞ドウ 小おまき づ

その上

麻あつらん ぞ 僅エどうらふ

符フ あり

擲ツク ンド 中ナカ 互タガヒ 間マヒ 四ヨ 枚マヒ あり

ぞり

勢セ ぞり かりの 状シテ 様ニ ぞ

交マシ 交マシ せし

此方コノカタ なら 於オキ 麻マ の 妙タマシ ぞ

心の内ココロノウチ ぞ

予オレ 亦モト 可カ 振マシ と 呼ヨ べ

きん 再マシ 小

此コノ 修シユ づ 業ゴウ 林リン 相サウ へ

バシク修一

伴丹を乃風吹カシ

中ノコトスヨ

尊性ノ今取修一

氣さん

宗根ノ鬼ノ今取修一

殺生ヤノ

子裁イ被テ掃ク乃修一

大内内

名セコトウチキランウ向コ

歌キのる遠

唐ガ陸マカウツイおん家

おんのイ維レ根ム

海キヨウワイ

オイラのメと成ル常

成ル氣

以取修一白湯吸

修一

向入の内おんぼナト

高紐トヤ

よふはあされ美らきづき

三ヶ  
類コチ

マア正川かしの日海りら

ゆのこを好ふ

後うはまゝふよ敷つひりの

徳

まげんぞかんせ細ナ興

よふ利クナク

研も選ラム苦ズドや店せ

かゝるゝ

出ーよりこナア栗のき

マア〜安心

まのぞり春んで仕舞このぞ

ぶのこり

エライ 霜ナアけ揚乃

流掛ふ〜ちりやを利ドや

ニヤレガさ

減小 露拂ひの遊歩ナ

あんきまお

飯と喰入程乃ちう〜出せ

絶奈ノ

安イリんナア 盃船子

源ノ

そ来乃方ぞ入る香

ヨイ佳コウ

結とるも嬉らん

爰でコウ

村乃奴ウラ小己レの智

こはあふ

せり〜 儲クまらん 勢コリ

引たり

引く乃トヤワイを 神ガ

羽織を忌除小付るカイ

あまふ

予系帯を呼レる川

原も有ロカ

川〜のよふ予おとふ

〜

〜ゆり〜も小珠数と

可ク内達

按州アセウはあろろいヒトフ

ふんをのり

陵子リョウシあろろ乃大いそ入さ

氣色キシキかぬい

歌一止かんを予所コの

今性根

より付傳トヤ板乃間ダ

画エハ土佐家

古風俗コフクももん家奥女中

結搦

遊ユして居知は糸一のふ

端ハタ小麻コマより旗ハタ一に

塩シホ悪アク一々

そつソツハ家カ變カてお終オハ一トヤ

もんをのりぬ

名ナト切キし呉キレテお存オ一

怖コり

聲コエかきんカイ蘇キ一

知チはははるふ川端カハへ

是コノか

おのちもつてまじその後ぞ

水

芝草がまじりて入るものぞ

うひらひら

まじりてやんちりてまじりて

頓ヤガ

思モいぬりてまじりて

己コレの齒ハゆけとアアロてら

綴ロキりてら

志キ波ト強ツヨいふハチ目メクハ

ぬらふんへらぐ寝ネ入イふん

直昔ナカ芳ヨシ

けふもてをキヤトモ紫ムラサキ

ヨけちり

ゆりてらまじり私シらひ

左ヒダリ指ササりシもモよヨんンを

右ミダリ指ササりシ

おのちの今イマがまじり乃ノら

延ノビりて

ヤモきしとちのゆら乃ノら



おのりひ

糸の方お借し申すいふ

懐ふあひ

さふあ 我わがふふ休やすくくあつて

細テウレ子命シメ

右板トヤサヨ〜とつとサヨ

左付〜

どらら〜あふ〜あふ〜あふ〜あふ〜

あつて

だんあ〜トヤナイ〜だん〜だん〜

何のふとや

今言〜と英斗〜の麻具マク波比ハヒの

あつて

昔〜おれをへつんとでも

レコ次青

ちつと小き〜お娘〜トヤと

あんとナト

吾地〜も物〜しん風〜珍〜入

マア〜も

吾利〜も吾〜いせ〜まん〜〜

さびがよん

一人のアイおけまら

アちんた一遍

ろきん子治どやタニサク鏡丹へ

いづんでる

それぐーカチ鼻と二役どや

おころき

お花の子ねを水なう

けのたふあ

男小赤いのぐさくのも

藤ノ巻

け味ア合アイがふからんを

けれどナア

そいふカチおのりも

ふりと思案

眉毛コニケのうぶくたんのア

おキデエナ

おスカタそまら風名だけけ

障サり三百目

下コ接コらんとやけ方の鼻

髪しそつそつ抱<sup>ダ</sup>クカイホ

浪<sup>ナミ</sup>ダ打子

覺<sup>キ</sup>アナイ安<sup>ヤス</sup>りんの強<sup>キヤウ</sup>授<sup>コ</sup>

園<sup>ニ</sup>みやげ

拾<sup>ヒ</sup>口<sup>ク</sup>とと夫<sup>ツ</sup>立<sup>タ</sup>出<sup>デ</sup>して子<sup>コ</sup>ヨト

かゝる

おり居<sup>イ</sup>へるひ付<sup>ツ</sup>て居<sup>イ</sup>る

ど<sup>ト</sup>中<sup>ナカ</sup>にても一<sup>ヒト</sup>子<sup>コ</sup>随<sup>ズ</sup>いふ

恵<sup>メ</sup>方<sup>カタ</sup>乃<sup>ノ</sup>方<sup>カタ</sup>

モスコ  
モスコ  
ギイト<sup>キイト</sup>やあ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>は

位<sup>イ</sup>

中<sup>ナカ</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>り<sup>リ</sup>ん<sup>ン</sup>ど<sup>ド</sup>や<sup>ヤ</sup>居<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>ん<sup>ン</sup>の

花<sup>ハナ</sup>の<sup>ノ</sup>塚<sup>ツカ</sup>

アノ夢<sup>ユメ</sup>メ<sup>メ</sup>ハツ<sup>ツ</sup>イ<sup>イ</sup>覺<sup>カ</sup>メ<sup>メ</sup>と<sup>ト</sup>入<sup>イ</sup>家<sup>カ</sup>

酒<sup>サケ</sup>き<sup>キ</sup>げ<sup>ゲ</sup>ん

片<sup>カタ</sup>紙<sup>シ</sup>ふ<sup>フ</sup>向<sup>ムカ</sup>カ<sup>カ</sup>イ<sup>イ</sup>眼<sup>メ</sup>を<sup>ヲ</sup>居<sup>イ</sup>上<sup>ウ</sup>る

玉<sup>タマ</sup>小<sup>コ</sup>麻<sup>マ</sup>ア

眼<sup>メ</sup>う<sup>ウ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>け<sup>ケ</sup>と<sup>ト</sup>鼻<sup>ハナ</sup>へ<sup>ヘ</sup>出<sup>デ</sup>る

靴<sup>シツ</sup>の<sup>ノ</sup>深<sup>フカイ</sup>い

ふ<sup>フ</sup>ん<sup>ン</sup>ど<sup>ド</sup>の<sup>ノ</sup>端<sup>ヘ</sup>と<sup>ト</sup>針<sup>ハリ</sup>う<sup>ウ</sup>る

骨

大キナ顔でなしてまじう

惚し〜

マア有りやせんぞドモあうや

恥と知し

きよらう〜うせふはとふ

きびつゝの

業よりこもるりよるが

つんと〜て

鼻ハナふうけとるチト顔と

〜さんお奴ッ

おふんどや白イやうでまゝやうで

。まゝてゐるや

今レおの〜この癖〜まきせ

ニラビ  
タア〜

いッてお寡ヤマみさんトやあん

むけらうと

嫁女ヨメメの〜の修シユ所ショコで

浮ウキ雲クモ〜

香カ達ダツ〜とけアノ尾ビ

十八

吾しやけど

ほ〜 義理ふ〜 まぬ〜

つも

折角<sup>セウカク</sup>人ふ<sup>サリ</sup>後<sup>サリ</sup>ワ〜

相<sup>ア</sup>合<sup>ア</sup>と

此方<sup>コノカタ</sup>か<sup>カ</sup>も<sup>モ</sup>ま<sup>マ</sup>れ<sup>レ</sup>初<sup>ハジメ</sup>ッ<sup>ツ</sup>ま<sup>マ</sup>を

出<sup>デ</sup>語<sup>ゴ</sup>り<sup>リ</sup>ト<sup>ト</sup>ヤ

又<sup>マタ</sup>之<sup>ノ</sup>續<sup>ツキ</sup>レ<sup>レ</sup>で<sup>デ</sup>居<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup> 初<sup>ハジメ</sup>晩<sup>バン</sup>小<sup>コ</sup>

噺<sup>ハナシ</sup>シ〜

ア〜 身<sup>ミ</sup>と<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>ア<sup>ア</sup>ろ<sup>ロ</sup>か<sup>カ</sup>〜

もて<sup>モテ</sup>致<sup>チ</sup>〜

ヤレ〜 何<sup>ナニ</sup>ん<sup>ン</sup>か<sup>カ</sup>男<sup>オトコ</sup>コ<sup>コ</sup>と<sup>ト</sup>い

也<sup>ヤ</sup>

そ<sup>ソ</sup>の<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>家<sup>カ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>ん<sup>ン</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>入<sup>イ</sup>

呆<sup>バカ</sup>を<sup>ヲ</sup>鼓<sup>ツ</sup>

跡<sup>アト</sup>り<sup>リ</sup>〜 此<sup>コノ</sup>ワ<sup>ワ</sup>イ 小<sup>コ</sup>餅<sup>モチ</sup>

系<sup>ケイ</sup>層<sup>レイ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>ル<sup>ル</sup> 匠<sup>ハシラ</sup>へ<sup>ヘ</sup>ふ<sup>フ</sup>イ

お<sup>オ</sup>望<sup>ノゾミ</sup>〜 此<sup>コノ</sup>身<sup>ミ</sup>

そ<sup>ソ</sup>と<sup>ト</sup>女<sup>メ</sup>上<sup>ノ</sup>り<sup>リ</sup>〜 方<sup>カタ</sup>板<sup>イタ</sup>の<sup>ノ</sup>小<sup>コ</sup>

身<sup>ミ</sup>上<sup>ノ</sup>有<sup>ア</sup>切<sup>キ</sup>

餅ナト焼イテ修舞テ 出テ

か〜

り人チヨビツトゼー〜

際ふあう〜

予後ヲ滅〜

ま〜

そまの唇〜

ひ〜

ゆ〜

會席料短

亭号乃類〜

よ〜

〜

〜

私タ〜

〜

結〜

後〜

〜

〜

苗まら内小う

灯も煙さぶふくく霧を

遠く

汗んあきくやスガ現りぶと

か減カヒく

コレぞホゆるをのがしをこい

冠カムりカき

えつとサ砂トヤ下結ダ支サくら

泳ユぐハく

おきんう揚の汲物と

ゆまよが智り

竹タケくタケくタケツイよん方ダ

あつアツゆりユリと

きくキクあひアヒびヒツツぐグ上ウおオンンイ

ゆユんン仕シ舞マ口クんンうウ足タんンいイダ

心ココロぞゾくク

よヨふフ禁タイイとトつツこコこコ風カゼもモ

とトんンとトろロぬヌ

兄ケイニニよヨ志シ門カドちチダ 志シうウよヨ

勝カチ子コダダよヨ心ココロ

風呂をぶつ後つ買つてとエト

樽チゲ明キ

唇口ありまゝと据棚の

三

怪者まゝりそ奢ゴリ

初

買ワリや成るまゝおんあつと

おんあつと

チヤリふもおんあつと口チを

深イ

おんあつと

おんあつと

おんあつと

おんあつと

おんあつと

おんあつと

おんあつと

おんあつと

おんあつと

おんあつと



此馳走チサウふと何と赤い乃を

面白イ

骨柳コウリウの飯メシしてかき持る

一服イツブククシヨ

アアアアアアアアアアアア

酒サケで飲む

日暮りヒケリと病ヤマト人ヒトさん

入イレ物モノトヤ

みんの内ウチふ四百四ツ

三月ミチありと

春ハルのる 大イオホかこ 槐カイ山ヤマも

氣キハカ

小夏コナツキ飯メシだけだけ帯オビ々々おあ

よふせの中

お二人オニニヒトり連ツラレレどお隣トナリりの

昔ムカシふあさん

さあさあ ちよどやきうらうら

紋イタダキ々のおの内

盤エタのノ入イるぬやうふと

今イマが盛カる

子ヨク〜ラちよふ田ノ木や

濃イ〜

ぶり〜王子お旅指ふ

張おんぞ

燈よ切目トやちり紙の

海刺し川さふ

西入〜やとんきじヨをふ〜

来〜

乃燈よきまに下負イ

ヲイ解がみんら赤イのと

あ叶

色上ク仕くる深きもの

下張

あま〜あ〜ゆり〜

瓜ウニウ

猪口まぞエッ識カホワイナア

つ〜り音張

コレで新あへ〜と出せ

お月お交

あゝの響りも〜

つと

隣りてあらしう向いでんせ

つとみより

おあまふとれ ぬきふへ

健ふより

解う 變う 松多しあう

黄

三味線きりふふ抱かへ

白

ニユツト出さうり〜舌焼い〜

月

行きの新トやお里への

本

子鞠うほ〜がう 昔トやまご

金

鳥帽子と買イもよ成〜ん小

雑ふも啼まば

子ヨト へ〜〜 御用金

月の毒

忘るも掛へ〜茶所の傘

よ

コレを女メウまの口クチ数カツも

へげへねり

何ナニがガいぞ今イマおろし

名冠附集

兵庫 雪先菴素洲撰

つと

ふがふああるる程ほどははねり

危ヤブももゆけ

おろししかろししをを今イマもも

乳チよりり香かるる外ほかかかるる

つと

枝えだだとと谷やるる人ひと切きりり

夜よがが明あるる中なかでで服ふくををままどどだ

身みどどやや

引上りられ〜お〜  
際より入りきゆる雲

舞臺

夕立ふ〜ト入り傘をさす

橋か

まよ 舞〜らんう清うがな

かまど持〜来る掃り〜

糸と 定ぬる雪解けの

舞臺

小姓乃 薫り乃〜土堆

舞臺

皆んふ〜ぞう 控して居る

一ッ 建てる 塔を組み

ふこほや〜

己レ 小舟の中〜舟は

焼くとお歌くま〜き 持

何とも 仕合〜何りまに

影平 小舟〜う 漢さぬ

云ハゆり花と 自ら〜

モフ 中

清〜さ〜 持酒〜や〜

引鶴とあり 籠育ち  
汲み水もお茶とつくる  
鷲巻も今川とて麻の  
柳ちりちり水とる  
時津風  
多木も武藏野へとど  
浪進しとも大

羊の糸

面白ひ水が遠くへ来る  
よぎれくさふ唾を吐き

あふ配刺も信る中  
泣かせしとて娘よ  
切なく久離ふと世が笑く  
とつとつとや

あつても 志中とちどけ  
あせとや

さんふ 峰のも冷入調子  
智恵うけ

山へ ちり付る月明り  
減りあせさる ねえ 乃解

秋風く

種々能いので米小籠

きんぐく

橋うけ高砂へあさぬ

かきく舟もあさぬけふ

船のふえふ宵がそひ

おまきく付くももぞおてる

りどどの指も輪が合口ぬ

きんぐんよふ

あのを習りもおまきりも

月

霧の 秋の 味がめん

雲の 雨の 洗躍が

あ風の 雨の 研工跡り

根のふきか

日の暮るを日ふきか

目かたつ

おふや 籠舟おぬるも

買ふ成よりも入付ら

自由自在

地紙のくんと絵も書さ

罪も<sup>ツ</sup>多し

ぐし〜〜し〜〜し〜〜し〜〜

きげんよよ

何も佛が〜玉あり

あゝ<sup>+</sup>鶴鳴きぬ行鶴ら

三<sup>+</sup>盛

ひる夜もあひ柳、屋

月

余のハ座中の憂も寐ぬ

礼

初夜士の皆<sup>ろ</sup>権<sup>ろ</sup>権

〜〜〜

融<sup>ユ</sup>通<sup>ツ</sup>ッがあそりや湯もたぎり

實<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>名<sup>シ</sup>也

自<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>浪<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>治<sup>レ</sup>き

行<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>ひもも〜〜

主婦中よ

少<sup>シ</sup>月<sup>ト</sup>〜〜実<sup>ニ</sup>送<sup>レ</sup>マ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>信

〜〜〜



花を使へ自をさぬ

照月をさぬ

邪<sup>イ</sup>がんで居るは二市を  
揮<sup>ヒ</sup>るより為る物系<sup>ユキ</sup>私

浪風あり

川へ流しそ笑ひ合ひ  
尺<sup>シ</sup>くがさうわとおびすも

素<sup>ス</sup>しとよりの

ホレ夢理いそぬおきん

ハテ命<sup>イ</sup>行かぬ

お休<sup>オ</sup>ぐそくれく 海<sup>ウ</sup>を

鳥<sup>ト</sup>那<sup>ナ</sup>さんらん又<sup>マ</sup>撥<sup>バチ</sup>と

気が掛ひ

宮<sup>ミヤ</sup>下<sup>ノ</sup>秋<sup>アキ</sup>さ風<sup>カゼ</sup>るあふじ

一ツだけ

鳥<sup>ト</sup>那<sup>ナ</sup>さんそふへ酒<sup>サケ</sup>家<sup>カ</sup>進<sup>シ</sup>と

比<sup>ヒ</sup>川<sup>カハ</sup>くうく

井<sup>イ</sup>取<sup>ト</sup>とさる井<sup>イ</sup>の浦<sup>ウラ</sup>

吉<sup>キチ</sup>相<sup>サウ</sup>く

神<sup>カミ</sup>代<sup>ヤ</sup>へ流<sup>ナ</sup>る長<sup>ナガ</sup>小<sup>コ</sup>幣<sup>ヒ</sup>

三十一

何れもつら

貞柳のそ由縁さ

晴切つ

断り皮入ぐをいを

ほろちりの

ふ小鍵も放つて

竹小せつ々竹の道

思ひつ

あふこがきけりや目の照るぬ

送るつら

足元華しつら入し

振見もさほと灯を

あざれつ

こふふ成つてまらふ

道が知れ

向ひ合せて捕りつひ

老坊つ

吾ひ乃て酒白みきい

かみきおほふ

男が喰らうや志まらん

鳥後羽織居くお道一

あつとりの

たれが落しを感づくのトヤ

たまのしを

おるも晴すしよ又内も

ふさゆるん

梅干し又 花のしり

子グおまぬ温泉の有まを

振目もふくは

中街道へ通り よい

帯とたを 一節し

土氣がたるま

掃いてあつても戻しん

何んともい

舞の幕がみキヤ浮きくと

舞〜も有る松振

うれしもスレた

帯も赤ひ日の せり

木の葉が 仙人小巻カを

浮世の車

かづげと尻シがうづげと

乃んどろと

臨も本縁も湯のーす

羊の刺切りやぬと煮

組とく山とどーかち

解ト小問くくくおま

和わりり

私わのちちのああけけと

習しくくかかのの純じ潔じと

家い弟でトトややああららままんんけけと

きんりおひやけせん

迫しくくぬぬ舌しがが味あ方はと

眼まがが曇もりり

白しいとと赤あととおおと

一い束くののああまま肝き決けと

宿しくくくくれれとと荷かがが飛たい

りりとと香かりりとと麻あもも来きぬ

比ヒ翼ヨウ連レン新シン

けけ令れいナナ物ぶつククふふくくととぬ

是こ竿さとと小せう仕しととぬ

灯の昏小照り針小照り

老人くく

他人のいふ人仕くくや

龍耳リウホくくくくくく

縁起エトキくく

くくく 佛小仕くく

袋の底の

送カくく成しお帰りの

風邪カゼ引カくくくくくく

幸ひく

糸巻をあらは

海小あつ浪 海入波

爺ん云くくくくく

揺れぬ極小あつり

極美附あつり 世くくく

袋の底の

員くくくくく

極楽く

漬カツくあつりく漬くく

くくく

嶽多 物々 深く百姓の

泣き聲エ

ワイ門下にも 出魚も

原産おしる

向ひも 船が 早入 成り

清かしく

高世の方へ 佃ふらん

ちも引方

酒屋の 掛ひ 住く 墨カキや

け方 悪きも 悪ひ ともど

北山時雨

柳を 出らん ありの

糸より 小供も 浅く入り

神の 佛り

初物 備え 毒を 祈り

根の かん

あふり とも 楽々 菊

大天物

新調が 鳴り とも 記し へん

初りの 松茸 と 作り

三十一

三十一

隠きん坊

え 郡ワ 匠ク又 買ッル 事

産子つら

盆 一チヤ 風入 今一ウ

よ 娘子 持ッル 物

是

種 一ハ 字

笑

挿 一ウ 一ウ 一ウ 一ウ 一ウ 一ウ

能ひあのどや

隠の事

二の 針 一ウ 安

及

始末 一ウ 一ウ 一ウ 一ウ

始末 一ウ 一ウ 一ウ 一ウ

閑

筆の 一ウ 一ウ 一ウ 一ウ

よ

玉 一ウ 一ウ 一ウ 一ウ

元子

買人う門ふらざんぞ

その門のぞき

邦来すばへ水光さ

根ぬるせ

海山へ舞入明々鳥

業種と商と在所者

む川つら

袋く漏く 寝る へんせ

進ふま

目く附く不二の橋ふ扉

よふ減りりのん腹斗り

喜ふ成るもまのふん

昔のふん世界

廻り 一日まふ 張り

陰と鳥が 赤橋へ

勢も若も

今橋ふみる 阿弥陀池

自由自在

榮花も那那も業

酒屋のちんをさむいほど



仕合ヤトヤ

今の名家ハ元ハ  
園ヲウケテハ  
たり不結<sup>レ</sup>池ノ  
るウの位光<sup>ク</sup>

十兩もさる根付提<sup>テ</sup>  
アノ清姫を蛇<sup>ビヤ</sup>ガ日<sup>ニ</sup>も  
器<sup>ツ</sup>ハ末の紫月<sup>ノ</sup>の燭

江戸の子<sup>ツカ</sup>イ

心<sup>ハ</sup>ひ<sup>ラ</sup>け<sup>テ</sup>あ<sup>ハ</sup>股<sup>ツ</sup>こ<sup>ス</sup>ん

堤<sup>ツミ</sup>乃<sup>ハ</sup>向<sup>カ</sup>ふ<sup>キ</sup>に<sup>テ</sup>也<sup>ガ</sup>あ<sup>ハ</sup>り

納<sup>メ</sup>ま<sup>シ</sup>め<sup>ル</sup>

サテ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>知<sup>ラ</sup>ん<sup>バ</sup>百<sup>ノ</sup>お<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ん  
秀<sup>タ</sup>也<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>ら<sup>ニ</sup>連<sup>ル</sup>今<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>

出<sup>マ</sup>来<sup>マ</sup>し<sup>マ</sup>す

サア<sup>ハ</sup>隣<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>藝<sup>マ</sup>さん

為<sup>ラ</sup>う<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>

成<sup>ル</sup>就<sup>ス</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ん<sup>バ</sup>今<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>

あ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ん<sup>バ</sup>今<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>

新<sup>ニ</sup>う<sup>ラ</sup>木<sup>ノ</sup>骨<sup>ノ</sup>と<sup>ハ</sup>芭<sup>ノ</sup>蕉<sup>ノ</sup>扇<sup>ノ</sup>

あふふふと霞さうふ  
さうさうさうさうの

安心く

たうあかひく秋の森よふ

比もよ

あうあふはあうあう

あふあふあふあふあう

あふあふ

あふあふあふあふあう

運盛う

あふあふあふあう

仕合せしや

あふあふあうあう

あふあふあう

あふあふあうあう

あふあふあうあう

あふあふあうあう

あふあふあうあう

あふあう

あふあふあうあう

よき事なり方のよしやあらん  
すつちんし

沖引ぎ〜よみ春なる  
お物もふともいふ物り

烈正  
物壁トらんき 土方ハ

送つ〜りりり〜るるるる  
はら〜ん

下も家お方お〜へ〜ん

何とあり ぬもあら〜むの  
種の新も家内 喰ひ  
信り〜も〜も 返んのか  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
所も〜つ〜つ〜つ ぬも  
以柳の大層屋子やせんを  
為思ひ

軒きへす月映り 上り  
お〜お〜お〜お〜お〜お  
是も示しと尻中カぬ

心より素直の方を好む

烈々

古ひ暖簾と云ふよ上々

素直を脱

丈下の侍へてア箱ワラ

和り

初めはグお悔り侍るを

追

今でも一の谷の

格好

お樂ん恩が年月を

留るせり

邪がんとりのり扱どけ

幸ひ

顔るくお女頼り

恩

暖簾の幅の多ふ余り

吉野の二月

お茶ほぐし物やあゝぬカエ

その青く

去こゝほんつみそまそ

系色ケレキと肥ホみ

伽羅カも 香カ煙エンりリ結ムスぶブげ

乃ノんンどドりリと

扇アまマ孔クふフ出デくク拾ヒひ

習ナりリぬヌ顔カのノ強ツヨみミ

廻マ上ウりリ

下シ碁イ釘キのノ利リくク様サマ

式シキ百ヒャク十ジュウ白ハク余ヨ

附日新集

浪花 服田素閣撰

高根タカネのノ正マサ

三日サンニチハ 齧カみミ 奪ハりリアアんン

拵ツクリへヘくクおオゆユ尺シヤク子シ 透スキキの

琴コトでデおオ考カウハハ吹フイイもモ

雲クモひヒ

赤アカんン赤アカ穂ホがガ出デるル中ナカ綴ヅりリん

ちチよヨくク紅ベニ紫ムラサキアアふフもモつツカカテ

雇ヤ伸ノくクハハナナアアイイツツ尖ササテ

ゆユんンどドつツきキんンもモあアりリぬ

画ハ土作繪

物ナも小アハ五子ハん管  
〜の榮店小ア〜の

神ハ正道

片氣の海ム子で宿へ引コ  
一ツ強エ〜せ 焼キ印レガ

お忍様お顔

よきねんカイホチヤトお乳  
タア 被ツ〜ケ 已リヤ土籠

さう〜の〜

どうのおも〜や〜

笑ワき〜知ど始ホ〜

后ツけ〜

あんと強んて海子んを  
送〜トケる果テ〜

さばけ〜

おま〜りア〜タ 由のケ  
激石〜〜と親又出〜

老古の鐘

り〜宿〜の〜お〜りカナ  
急地〜〜飛〜で 由〜モ〜の

桑原その名らう邪<sup>ジヤ</sup>作<sup>マ</sup>る  
乙<sup>チ</sup>レガ<sup>カ</sup>鳴<sup>ネ</sup>キ<sup>キ</sup>ゝ<sup>キ</sup>ゝ<sup>キ</sup> 樹<sup>カキ</sup>より

印<sup>イ</sup>ん<sup>ン</sup>お<sup>オ</sup>マ<sup>マ</sup>ア

うらうら〜 汲<sup>ヒ</sup>レ<sup>レ</sup>で<sup>デ</sup>取<sup>リ</sup>り<sup>リ</sup>の<sup>ノ</sup>  
私<sup>シ</sup>タ<sup>タ</sup>ー<sup>ガ</sup> 老<sup>ラウ</sup>毛<sup>モウ</sup>と<sup>ト</sup>ころ<sup>コ</sup>ろ<sup>ロ</sup>云<sup>クニ</sup>云<sup>クニ</sup>だ  
細<sup>ア</sup>ホ<sup>ホ</sup>ド<sup>ド</sup>や<sup>ヤ</sup>ふ<sup>フ</sup>知<sup>チ</sup>智<sup>チ</sup>力<sup>リキ</sup>の<sup>ノ</sup>お<sup>オ</sup>糸<sup>イト</sup>さん

瓜<sup>ウ</sup>田<sup>テン</sup>の<sup>ノ</sup>履<sup>ツキ</sup>

清<sup>シヨウ</sup>肉<sup>ニク</sup>子<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>時<sup>トキ</sup>キ<sup>キ</sup>ふ<sup>フ</sup>ら<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>又<sup>マタ</sup>  
作<sup>サク</sup>判<sup>パン</sup>の<sup>ノ</sup>付<sup>ツキ</sup>り<sup>リ</sup> 安<sup>ヤス</sup>い<sup>イ</sup>け<sup>ケ</sup>ど  
何<sup>ナニ</sup>が<sup>ガ</sup>よ<sup>ヨ</sup>か<sup>カ</sup>る<sup>ル</sup>

向<sup>ムカ</sup>ら<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>肉<sup>ニク</sup>を<sup>ヲ</sup>肥<sup>コユ</sup>て<sup>テ</sup>みる

じ<sup>ジ</sup>り<sup>リ</sup>〜 お<sup>オ</sup>粥<sup>カ</sup>と<sup>ト</sup>よ<sup>ヨ</sup>を<sup>ヲ</sup>れ<sup>レ</sup>〜

今<sup>イマ</sup>迄<sup>キ</sup>手<sup>テ</sup>で

何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>〜 嬰<sup>オウ</sup>を<sup>ヲ</sup>お<sup>オ</sup>〜 ひ<sup>ヒ</sup>モ<sup>モ</sup>の<sup>ノ</sup>  
知<sup>チ</sup>〜 成<sup>ナリ</sup>〜 を<sup>ヲ</sup>何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>時<sup>トキ</sup>に<sup>ニ</sup>や  
〜 や<sup>ヤ</sup>お<sup>オ</sup>の<sup>ノ</sup>色<sup>シキ</sup>知<sup>チ</sup>〜 する<sup>ス</sup>ぞ

吾<sup>オレ</sup>ら<sup>ラ</sup>せん

且<sup>ナ</sup>邪<sup>ジャ</sup>さん<sup>ン</sup>も<sup>モ</sup>サ<sup>サ</sup>ア<sup>ア</sup>ま<sup>マ</sup>と<sup>ト</sup>ら<sup>ラ</sup>い  
小<sup>コ</sup>ま<sup>マ</sup>〜 筋<sup>スジ</sup>〜 や<sup>ヤ</sup>ア<sup>ア</sup>家<sup>カ</sup>形<sup>カタガタ</sup>  
う<sup>ウ</sup>け<sup>ケ</sup>〜 来<sup>キ</sup>〜 の<sup>ノ</sup>〜 夕<sup>タ</sup>ア<sup>ア</sup>か<sup>カ</sup>〜

ヨ、婿

云ひあれ〜  
痴エハシ 松タイ菱の柳不  
ありひ

膝〜  
抗<sup>キツ子</sup>波〜もお<sup>サキウ</sup>不 又

雛<sup>キヒ</sup>子も鳴<sup>ミ</sup>び

折<sup>マ</sup>〜  
抱<sup>カ</sup>ケ〜  
とら〜

ちとひら〜  
根〜  
美とあり

尺八子 指<sup>レ</sup>由<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>タラ 聯<sup>レ</sup>〜  
コリヤ  
馬<sup>ウマ</sup>小<sup>コ</sup>ヨ

ふ〜  
チイ〜  
それハマア

耳<sup>ミミ</sup>の<sup>ノ</sup>か<sup>カ</sup>〜  
後<sup>ノチ</sup>〜



私タ一筆云々〜

男トヤ

子捕ケ一カホ一〜

おゐりあ〜もツイま〜

ソイツヤ 贈ホ持〜と云

笑々〜

ま〜東洋〜

何レの換コチハ外モ云

己レホ〜

物トへ濁〜

送〜上キヨ〜

〜極〜

業〜

纏〜

山椒の味

子もつ〜

家〜

舟〜

〜

ツイ 送具屋の門〜

ホンの藤の家のおおのふ

細下り太トあり

子ワイ 結又乃 蒙カエハ

よとゆれをしそアノ米倉

こいさく舞歌

お家さん作トハ知りません

何んとも手後おまーたり

唱りつ

霜の降ルおちり子あそん

気がエ今秋の禁物ハ

中きい

能ハ耳の垢カおりあられ

つりさんお歌今まーたり

縛つるまーお玉ワイお

またらぎり

めがきんまーおりたろも

砂掛ヶ松へ奉納仕極を

飲こて仕舞

開くモント也先生ハ

足しへ噴クノころりうと

昔代の指はさしあつたけれど

昔の巻うえ

あふもくろくおまたねのそ  
むうーがらうそあまら

遷幽金剛

茶乃ゆるぬのこおやいな

適多ふねたーがおようそや

こあ〜あ

やろり野ふらねるい言どや

糸物モシカイー白濁や

殺生セツシヤふ雨ナ 糸店ノこ

そらあえん

内らー一感つこつアあねぐ

だら〜うけ舞舞の傍バへ

いあ〜い

ヒこ〜あろ〜い 道行ヤ

は紙の移ふ今たね 如女ト

度ガが 素素とと巴巴しの柳柳

十の字まんと

ようはんぐあゝ井戸あぐ

幕が明いてもまだ夜が五

八景九景

二幕もぐんぐんおのこま

機能が有る ありきり

ふるふと

どこの 来たをもうまく

細らーちつと別々

夜

酒をくはると 酒

味は 薬ヒナケのも 水キ づ

乃がね

春もよるをど その飛

新米の 枚り 今より

さき

冷えるトヤアロふ 江戸

つりそ 新子 吹ケ 成りや又

ふどり

大主人トヤハ 風情

婦さんソナイ 遊ヒか

中ヒか

娘ヶたけきト 極ニエニき

折レく 此方の飛キを

とふカ奴

何レが遠ハ入口ホ予ヲ列シお

そのクセ己ヨしと向ム面ヲ

系小田舎

種ト也トロキヤヲちヲと

髪ハ工ヲ糸ヲ下ヲ細ト

ふきツぬ

味ハ米トやリチト捲ツガ

やほカりノ店ヲ入ル出ル鼻ヲ

はシり

小ノ簾ハほシもト也ト照スもト

ゆカりノまニ五ノ木ヲくレ

ちノ時也

何レもおシれ遊バまニ

名物ト有リやニ腕コ危シ

ちノ時也

歌ハ止ムんヲ予ヲ成ユの

来ル工ヲ成セ仲ラ屋小

ニツよみゆ

直う 賤スエノ以 啜くけど  
きくく 善して おまけと

仁

世ころ 所ウウと 乃チ附キ  
子清 乃忘ト也 規ニ 冠の

礼

乃より 仕くろ 然 乃乃  
子ヨと 解カぬ 名キ水をこふ

月小あゝ色

魚ル お 聖スカ王り ね

お、以 採ひと ちん 中チ水

蟬の聲

あへも 突いて 急 倉ノ

用心ダ 乃、必 遠み

二人連

粥 喰と 足レで 付キよめと  
裾と 毛も 少も ツイ 式キダ

鐘 路ウ ぬウ ト也 洵 澗乃の

猿 猴の丹

三

修舞と名非漸がまよて  
吾ヤ男しそよるお無しそ

池

白ひがさるかへるる事乃  
下作りし家などお逆<sup>ホ</sup>れので

羊の所由み

モムあふモノしや懐物く  
曾清場もチド<sup>ア</sup>んまらうや

竹

深<sup>ウキ</sup>菜の中うふ五月雨<sup>ス</sup>や

子やくく子や雀<sup>ア</sup>メ色<sup>コ</sup>あしや

飲<sup>シ</sup>う喰<sup>シ</sup>り

蕨<sup>ワ</sup>と五<sup>イ</sup>六<sup>ロ</sup>抱<sup>カ</sup>持<sup>テ</sup>くう<sup>ク</sup>く

深<sup>シ</sup>切<sup>キ</sup>篠<sup>ノ</sup>も<sup>も</sup>こ<sup>こ</sup>さ<sup>さ</sup>す<sup>す</sup>い

御<sup>ア</sup>ま<sup>マ</sup>ハ<sup>ハ</sup>エ<sup>エ</sup>ト<sup>ト</sup>カ<sup>カ</sup>イ<sup>イ</sup>や<sup>や</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と

江戸

蕎<sup>ア</sup>麦<sup>マ</sup>ザ<sup>ザ</sup>ハ<sup>ハ</sup>州<sup>シ</sup>を<sup>を</sup>ほ<sup>ほ</sup>る<sup>る</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>

世<sup>セ</sup>京<sup>キ</sup>キ<sup>キ</sup>小<sup>コ</sup>凌<sup>リ</sup>ム<sup>ム</sup>無<sup>ム</sup>麻<sup>マ</sup>子<sup>コ</sup>

お<sup>ル</sup>ひ<sup>の</sup>や

そ<sup>ウ</sup>汲<sup>ヒ</sup>よ<sup>の</sup>ん<sup>の</sup>花<sup>の</sup>井<sup>を</sup>

イワチ茶一や伊ノレゾ

石拾ひ

これハ翁ナノ書カキテ

又士川モカのふり 傍モカゲダ

眠りモと覺モへ

月ツキこりコとさうサウのゆも

實ツツツがツゆる鳥ムスム

ふも様

おきよハつツつツ後ノ中ノ

判りハ死シうウあアもモ暮ムト

雅

源ノ私シちチ源ノ川カ

枕マるル夢ユメ乃ハ海ノもモ流ハひ

五百羅漢

皆ナナナかカまマりリをオひヒ震シみ

草クサ塚ツタへヘちチとト納ノウ入イんと

五イうウうウけケドドヤ

己ミレレとト大オ根ネのノ撼カキキ出デが

あアらラ燈チぐグだダうウけケらラ

町チチチらラれ



りんともかきけと成らん  
サア知<sup>い</sup>ト未<sup>い</sup>有<sup>い</sup>お<sup>い</sup>チ<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>れ

志<sup>い</sup>不<sup>い</sup>吸<sup>い</sup>柱<sup>い</sup>ラ

蒸<sup>タデ</sup>、<sup>タデ</sup>お<sup>い</sup>く<sup>い</sup>イ<sup>い</sup>タ<sup>い</sup>ラ<sup>い</sup>能<sup>い</sup>う<sup>い</sup>ろ<sup>い</sup>ナ<sup>い</sup>ア  
中<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>蒸<sup>い</sup>く<sup>い</sup>一<sup>い</sup>房<sup>い</sup>お<sup>い</sup>出<sup>い</sup>お<sup>い</sup>し<sup>い</sup>を

跡<sup>い</sup>り<sup>い</sup>多<sup>い</sup>イ

今<sup>い</sup>維<sup>い</sup>子<sup>い</sup>の<sup>い</sup>聲<sup>い</sup>フ<sup>い</sup>ト<sup>い</sup>耳<sup>い</sup>一<sup>い</sup>子<sup>い</sup>  
そ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>わ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>を<sup>い</sup>髪<sup>い</sup>切<sup>い</sup>ぢ<sup>い</sup>も

け<sup>い</sup>く<sup>い</sup>や<sup>い</sup>も<sup>い</sup>

巻<sup>イ</sup>ト<sup>イ</sup>や<sup>イ</sup>イ<sup>イ</sup>ガ<sup>イ</sup>肉<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>皮<sup>イ</sup>

信<sup>い</sup>コ<sup>い</sup>フ<sup>い</sup>門<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>も<sup>い</sup>飛<sup>い</sup>く<sup>い</sup>タ<sup>い</sup>モ<sup>い</sup>ヤ

ま<sup>い</sup>う<sup>い</sup>で<sup>い</sup>枝<sup>い</sup>虫<sup>い</sup>

お<sup>い</sup>越<sup>い</sup>く<sup>い</sup>う<sup>い</sup>を<sup>い</sup>く<sup>い</sup>お<sup>い</sup>く<sup>い</sup>も<sup>い</sup>も<sup>い</sup>  
鳴<sup>い</sup>く<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>日<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>と<sup>い</sup>ナ<sup>い</sup>ト

別<sup>い</sup>お<sup>い</sup>て

ワ<sup>い</sup>イ<sup>い</sup>お<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>  
姉<sup>い</sup>か<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>け<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ふ<sup>い</sup>コ<sup>い</sup>リ<sup>い</sup>ヤ

味<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>く<sup>い</sup>

押<sup>い</sup>モ<sup>い</sup>ヒ<sup>い</sup>ト<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>う<sup>い</sup>う<sup>い</sup>う<sup>い</sup>う<sup>い</sup>う<sup>い</sup>う<sup>い</sup>  
一<sup>い</sup>ツ<sup>い</sup>を<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>の<sup>い</sup>直<sup>い</sup>ふ<sup>い</sup>成<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>と

まんじり

耳に挿く青トヘツイ耳ぶ  
ま似イも何ト也改タキ  
見儼キ

古錢出ーイモ 貧乏

どやそを別家仕く兄

中ドめふ

土瓶買入ふり 出さる

物ーふトイふかた

ヤリ

兵那さんの指不揃でナへ

なりきり

ア 何々

鼻の一

後

その跡よ

あ

何お乃 衣柄

波刃が

ホロイナ

ちのよんマア

折角ク熱イ幸抱し

吾菜もよろうつづ

ふこれ南ぎそんお

何ふたへん

柳も鼻の水面像ウ

折中門の所肉う戻ト

志り目ふうけ

たるんぶらにへ 元夫

よの裏トヤナアひつそり

内方水鏡のヤカふ成ツ

カキとかり

まてまされぬ結し解の

知らんを未顕とて實を

つづくもおあ

店ぐく欠くらぬの舎イテ

つと目ふハ其迄縁を

ほききぬ

紙紙が癒る望ウ一ツ

漢乃三砂やらの逆と

札ふらうひ

空の浪の姫トヤセアイラ皆ナ  
舞う 後こつてチヤトおくれ

そんあつるり

キレイふ体ととおれどや  
つと仕ヤルとおのこ

有るんぶ

青い畳も子らが扱  
扱テ 着し舞とつりのい

ま

ケニカチイナモウおカ  
鼓ツとまいとるゆつて

あつるり

七人こつりても舞  
舞の目よふし舞タラ

あつるり

久も堀が虫けとる  
ヒともつらんチ離れ

今片ま

サ  
竹ふ自中てま

兄<sup>ニ</sup>の崩<sup>ク</sup>と洞<sup>ノ</sup>〜

てより我<sup>ハ</sup>小

浮<sup>キ</sup>やきよるんをうア酒<sup>ハ</sup>を

来<sup>ル</sup>〜向<sup>キ</sup>へ秘<sup>シ</sup>人<sup>ノ</sup>が

又<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>宿<sup>ノ</sup>クでアノお娘

志<sup>ス</sup>〜り〜

何<sup>レ</sup>の時<sup>ト</sup>やイふ言<sup>ハ</sup>〜

上<sup>ノ</sup>〜とお懸<sup>フ</sup>おきん〜

大<sup>ニ</sup>序<sup>ト</sup>〜と接<sup>ス</sup>〜おま〜の

志<sup>ス</sup>〜るの<sup>ニ</sup>心<sup>ヲ</sup>

家<sup>ノ</sup>がま〜りあので風<sup>ノ</sup>凌<sup>グ</sup>キ

洞<sup>ノ</sup>房<sup>ノ</sup>忌<sup>ノ</sup>ホチト流<sup>ル</sup>〜あけ〜

何<sup>レ</sup>と〜い人がお〜あ小

ぼ〜り〜

葛<sup>ノ</sup>藤<sup>ノ</sup>抛<sup>テ</sup>らんをよかり場<sup>ノ</sup>カ

異<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>々<sup>々</sup>今<sup>ノ</sup>とあ〜ア森<sup>ノ</sup>〜

用<sup>ハ</sup>〜

浪<sup>ノ</sup>キふ〜るこの島<sup>ノ</sup>那<sup>ノ</sup>〜んの

己<sup>レ</sup>〜尖<sup>ク</sup>木の芽<sup>ノ</sup>浮<sup>ク</sup>〜と方<sup>ノ</sup>小

掛<sup>ク</sup>〜も置<sup>ク</sup>〜へ

カラカ有る

ツイちちちとぬ忘賀の助  
紅アコ赤ハのハこハ赤ハコハ 糖ハ着ハる

渡ハるハ船

おきまハんハうハまハらハそのハ島ハあハい  
城ハ布ハ織ハふハまハまハとハヨハをハカハイ  
店ハふハたハのハあハつハ人ハがハで

爐ハふハのハく

冷ハヤハスハけハどハようハゴハレハシハヨ

とハうハドハやハ新ハ酒ハをハきハうハんハの

社ハハハるハ番

別ハ當ハ職ハハ 女ハ菱ハガ

うハけハとハ鏡ハハ 尺ハ取ハ寸

今ハがハ家ハ中

素ハ教ハくハ以ハてハるハ方ハがハけハつハく  
経ハ漢ハもハあハまハぬハ月ハ々ハ漸ハ々  
骨ハ子ハ後ハのハ近ハテハ以ハ味ハ子ハで

魁ハ々ハ々ハ

をハ付ハくハ貴ハいハ井ハリハドハヤ  
今ハ々ハとハ祝ハ儀ハをハうハぐハ々ハ

ふふつ

惚きさうあんとドウあさる  
又移りし名の思案こがも

自ひつ

鳴る草首小田家のトヤ  
今世と覚る作とトヤロガ

あつたあ

以下粒フ又何と解子  
車ちと出そ骨うも

冠海名取津島終

安政五年

發行

大阪書林 敦賀屋彦七

同 河内屋和助

塙書林 本屋伊三郎

大阪書林 茨木屋藤七

